

「新しい東北」官民連携推進協議会
令和3年度 福島県意見交換会（第3回）議事概要

令和4年2月24日
「新しい東北」官民連携推進協議会事務局

【日 時】令和4年2月24日（木）15:00～17:00

【場 所】復興庁福島復興局／オンライン

【出席者】（敬称略）

＜副代表団体＞（所属の五十音順）

株式会社東邦銀行

福島県

国立大学法人福島大学

一般社団法人ふくしま連携復興センター

＜復興庁＞

復興庁 復興知見班

復興庁 福島復興局

＜事務局＞

PwCコンサルティング合同会社

【議事概要】

1 開会

1.1 復興庁の挨拶

- 実践の場と、今年度の事業の振り返り、次年度の取組について、忌憚のないご意見をいただくよう復興庁より挨拶した。

2 各団体の活動紹介

2.1 福島県

- 資料2-1、2-2を用いて、「令和4年東日本大震災追悼復興祈念式」と「ふくしま復興を考える県民シンポジウム2022」について説明した。

3 実践の場の開催結果・年間の取組を通じて導出したノウハウについて

3.1 資料1を用いて事務局より説明した。

3.2 意見交換（論点1：年間の取組内容・実践の場に対する良かった点・改善点）

記事を通じて福島県の企業の魅力を発信し、地元の就職率を上げる今年度の取組テーマはよかったですといった意見が多く挙げられた。改善点として、取材記事の発信方法の工夫や閲覧回数等の把握といった点が挙げられた。

（主なご意見）

- 「読む会」について、学生が前向きに取り組んでいたこと、取材対象が地域事業者の若手であったことはよかったですと思う。今後も継続的に活動を展開していくとよいと思う。
- 自治体・事業者の離職防止等の様々な取組があらゆる主体により取り組まれている中、協議会としてどういった付加価値を加えられるのかがテーマ設定をする上で重要。本年度あすびと福島との今回の取組は他にはない取組であるので、こうした取組の深掘りをする方向性がよいのではないか。
- 今回は福島の地域の企業の魅力を発信するよいテーマであったと思う。取組の発信の公開範囲について、より多くの方に効果的に周知する方法が今後の課題であると思う。また、取材先の企業側のご意見も取材の中で深掘りできるとよいと思う。
- 発信した内容について取材先の事業者がどのように感じているのか、またどれだけの方に

- 記事が読まれているのかが把握できるとよいと思う。
- 取組は非常によいものであったと思う。今回の取材前や記事掲載の前にどういった情報を加えるべきか意見交換ができればよかったです。また、取材のためにより多くを訪問した方が、福島の企業の魅力を伝えることができたと思う。
- 取組テーマの設定については複数年度で取り組む観点から、今年度の取組を深掘りする方向がよいのではないか。

4 次年度の協議会・意見交換会について

4.1 資料1を用いて事務局より説明した。

4.2 意見交換（論点2：よりインパクトある取組とするために工夫するポイント）

論点1で議論された改善点も踏まえ、活動を早期に開始することや、協議会として独自の取組となるようなテーマの設定、議論の基礎となる事業の目的・目標の明確化といったことが、次年度におけるインパクトある活動に向けたポイントとして挙げられた。

（主なご意見）

- 次年度に新たな取組テーマを設定する場合、本協議会においてインパクトを与える独自の取組となるような領域がポイントになると思う。
- 次年度の事業として新たに取り組むテーマを選定する際には、早いスタートが切れるようになる必要があると思う。
- 2月17日の「ふくしまSDGsフォーラム」において福島県内の高校によるリサイクルの取組に関する発表があった。持続可能な地域活動としてSDGsの観点から学生に取り組んでいただけたテーマであれば、学生の意識も高められ、通常の企業紹介ではなく学びの観点も含めた取組になると思う。
- 福島イノベーション・コースト構想と絡めた取組とする場合、「新しい東北」の事業としてどういった関与の方法があるのか検討する必要があると思う。本事業としていつまでに何を達成すべきか、「新しい東北」とは何を目指す取組なのかを共有する必要があると思う。
- 実践の場については、今年度はクローズドな開催であったが、本来は情報発信のよい機会であるので、オンライン会議も活用しながらオープンなイベントとすべき。開催のタイミングが早ければ、地元の高校の課題研究の授業と連携することも可能であると思う。

4.3 意見交換（論点3：次年度テーマ）

今年度の活動を踏まえつつ、次年度は、県内で取り組まれている他の事業などを整理し、協議会として独自の取組となるようなテーマの設定が必要であるといった意見が挙げられた。また、具体的なテーマの方向性として、地元企業・学生が求人・就職活動において抱える課題の解決や、地域の若手の人材流出の解決などが挙げられた。

（主なご意見）

- 今年度の取組を継続する方向性とするのであれば、学生や事業者に対し参画するメリットを提示しないと難しいと思う。
- 被災した直後においては、県内産業がダメージを受けていたため、県内の若者が県外への就職を検討するケースが多い傾向も見られたが、当時小学生であった今の高校生・大学生の方々は地元で就職することで復興に貢献したいといった想いが強い。地域の若手の流出を解決するような取組になるとよいと思う。
- 大学での就職の求人紹介としては大手の求人広告事業者が多いが、地域の事業者にとって経済的な負担が大きい。福島県内での取組として、地域内での学生向けの就職求人情報を提供して企業とマッチングする仕組みづくりや、地元就職を希望する学生が県外就職を選択せざるを得ない場合の課題解決などに取り組めれば、全国へ展開できる取組となるのではないか。

- ・ 浜通りにおいては実績がある人材マッチングの取組など、県内の既存の取組とその対象を整理した上で、協議会として独自の取組となるようにテーマを設定する必要があると思う。
- ・ 浜通りの取組については首都圏に対する情報発信が活発であるが、福島県内の学生にはそういういた情報が届いていない印象があると思う。既存の県外向けの取組についても、情報を共有することで学生の地元就職に繋げられると思う。

5 閉会

5.1 本日の決定事項

- ・ 次年度のテーマについては、令和4年度の意見交換会にて過去の取組等を整理し、議論した上で決定することとした。

以上